教　育　研　究　業　績　書

2024年　5月　1日

氏名　宮　本　一　行

研　究　分　野	研　究　内　容　の　キ　ー　ワ　ー　ド
１．芸術学	インスタレーション・アート、メディア芸術、音響芸術
２．人間情報学	感性デザイン学
３．デザイン学	空間デザイン、環境デザイン、インタラクションデザイン

教　育　上　の　能　力　に　関　す　る　事　項

事　　項	年月日	概　　要
１　教育方法の実践例		
１）東京芸術大学		
①　空間映像論（演習）	平成21年4月～ 平成25年3月	＜ＴＡ＞プロジェクションマッピングの技術を応用した空間造形演習。メディア表現全般の技術指導。
２）武蔵野大学		
①　環境プロジェクトＣ（演習）	平成21年4月～ 平成24年3月	＜ＴＡ＞環境や身体に相互作用をもたらす空間をテーマに作品を制作するプロジェクト演習。メディア表現全般の技術指導。
②　環境プロジェクト成果報告Ｃ（演習）	平成21年4月～ 平成24年3月	＜ＴＡ＞環境や身体に相互作用をもたらす空間をテーマに作品を制作するプロジェクト演習。メディア表現全般の技術指導。
③　環境論演習Ｃ（演習）	平成22年4月～ 平成23年3月	＜ＴＡ＞国内外のデザインプロポーザルに積極的に参加することを通じて、現代社会に通用するデザイン思考を養うプロジェクト科目。メディア表現全般の技術指導。
④　プロジェクトＣ（演習）	平成24年4月～ 平成29年3月	＜ＴＡ＞プロジェクションマッピングの技術を応用した空間造形演習。メディア表現全般の技術指導。
⑤　プロジェクト（演習）	平成30年4月～ 平成31年3月	＜ＲＡ＞環境や身体に相互作用をもたらす空間をテーマに、作品を制作するプロジェクト演習。国内外のデザインプロポーザル及びアワードにも積極的に参加。
３）武蔵野美術大学		
①　環境デザイン（演習）	平成26年4月～ 平成27年3月	＜分担＞サウンドスケープ・デザインの事例を紹介するとともに、身の回りの音風景へのあらゆるアクションを加えていくことで新たな芸術表現を創造する。
②　空間演出デザイン演習（演習）	平成26年4月～ 平成29年3月	＜分担＞講師らが監修したサウンドスケープの祭典「PLAY with Soundscape：音風景の可能性」（2014｜茅野市民館・茅野市美術館、長野）における芸術表現の再展示・再演を鑑賞。
４）秋田公立美術大学大学院		
①　スタートアップ（導入）	平成29年4月～ 平成31年3月	＜ＲＡ＞多様なバックグラウンドを持つ学生が、短期集中的に７日間の共同作業（調査・企画・制作・発表）に取り組むグループワーク型の導入科目。メディア表現全般の技術指導。
②　複合芸術演習（演習）	平成29年4月～ 令和3年8月	＜ＲＡ＞芸術諸分野や、作品制作に不可欠な凡庸性・応用性の高い知識とスキルを集中的に学ぶオムニバス形式の演習科目。メディア表現全般の技術指導。
③　複合芸術実習Ａ・Ｂ（実技）	平成29年4月～ 令和3年8月	＜ＲＡ＞複合的な芸術表現を通じて地域社会と関わるためのコラボレーションやアウトリーチを図りながら短期的なプロジェクトを完結させる実習科目。メディア表現全般の技術指導。

事　　項	年月日	概　　要
④　特別研究Ⅰ・Ⅱ（実技）	平成29年4月～ 令和3年8月	＜ＲＡ＞修士論文及び修士制作に関する指導を行なう研究科目。修士研究における論文・作品制作の指導。メディア表現全般の技術指導やアートプロジェクト論などを論考指導。
５）札幌大谷大学 ①　情報・プロダクトデザイン研究Ｂ（演習）	令和3年9月～ 令和6年3月	＜単独＞人間の知覚認識に着目した新しい体験のデザイン提案とプロトタイプの制作を行う演習科目。
②　メディア基礎Ｄ（演習）	令和3年9月～ 令和6年3月	＜分担＞「時のカタチ」をテーマに、コンセプト立案、作品制作、プレゼンテーションまでを行う演習科目。
③　メディア基礎Ｃ（演習）	令和4年4月～ 令和6年3月	＜分担＞「光のかたち」に着目した新しい照明装置のデザイン提案とプロトタイプの制作を行う演習科目。*オムニバス開講科目の一つとしてプロダクトデザインを担当（単独）。
④　メディアプラクティスＡ（演習）	令和4年4月～ 令和6年3月	＜分担＞Blenderの基本操作の習得とプロダクトデザイン提案やデジタルファブリケーションとの連携を行う演習科目。*オムニバス開講科目の一つとして3DCGを担当（単独）。
⑤　メディア表現ゼミＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ（実技）	令和4年4月～ 現在	＜単独＞プロダクトデザイン及びメディア芸術全般の表現領域における事例研究からプロトタイプの制作を行う実技科目。
⑥　情報・プロダクトデザイン研究Ｃ（演習）	令和4年4月～ 現在	＜分担＞「はかる」をテーマにプロダクトとインターフェースのデザイン提案を行う演習科目。
⑦　感性デザイン論（講義）	令和4年4月～ 現在	＜単独＞人間の人体・生理・認知の特性や感性的思考を把握するための各種調査分析手法と活用について紹介する講義科目。
⑧　情報・プロダクトデザイン研究Ｄ（演習）	令和4年4月～ 現在	＜分担＞コミュニケーションの問題を発見し、それをテーマにした観察・分析・デザイン提案を行う演習科目。
⑨　卒業制作（実技）	令和4年4月～ 現在	＜単独＞プロダクトデザイン及びメディア芸術全般の表現領域における学生のオリジナルテーマによる作品制作を行う。
⑩　共通基礎Ｃ（演習）	令和5年4月～ 現在	＜分担＞身の回りの光を「カタチ」として捉え直す演習科目。*オムニバス開講科目の一つとしてプロダクトデザインを担当（単独）。
⑪　情報・プロダクトデザイン研究Ａ（演習）	令和6年4月～ 現在	＜単独＞生態系の観察を通じて新しい形のデザイン提案とプロトタイプの制作を行う演習科目。
⑫　総合表現演習Ａ（演習）	令和6年4月～ 現在	＜分担＞Blenderの基本操作の習得とプロダクトデザイン提案やデジタルファブリケーションとの連携を行う演習科目。*オムニバス開講科目の一つとして3DCGを担当（単独）。
⑬　専門基礎Ｂ（演習）	令和6年4月～ 現在	＜分担＞「時のカタチ」をテーマに、コンセプト立案、作品制作、プレゼンテーションまでを行う演習科目。
⑭　クリエイターズ・ライブラリー（講義）	令和6年4月～ 現在	＜分担＞様々な分野で活躍するクリエイターや教員の仕事内容とその思考プロセスを紹介する講義科目。
２　作成した教科書，教材 １）《さくらあん》（作品）	平成21年7月	＜分担＞本作品は、透過性を持つ12本の膜を短冊状にかけた空間作品であり、周囲の環境変化を身の回りの移ろいに変換する簡易的なインスタレーション作品である。透過性を持つ膜に投影するイメージ（映像および画像）の制作を課すことで、映像メディアが実際の空間に立ち現れる。新たな環境を創出する空間造形の一つあり方を身につけることを目的に、演習科目の教材として活用した。

事　　項	年月日	概　　要
２）《Oto-Hotaru》（作品）	平成26年3月	＜分担＞本作品は、音に反応して仄かに光る白濁色の瓶《Oto-Hotaru》を持って、表現としての音響が配置された暗闇の中を歩いて回る体験型のインスタレーション作品である。作品の鑑賞体験を通じて、「音」と「光」という根源的な現象を捉え直すことを目的に演習科目の教材として活用した。
３）オンライン会議システムZOOMの活用ガイド（教員編・学生編）	令和2年4月	＜分担＞本教材は、2020年4月より秋田公立美術大学が開講する全ての科目がオンライン授業へ移行するにあたり、オンライン会議システム「ZOOM」の使用方法と授業運営方法をまとめた教材を作成した。
４）美術系オンラインアーカイブリスト	令和2年4月	＜分担＞本教材は、コロナ禍において自宅待機を余儀なくされた美術関係者および美術大学生向けに作成した教材である。芸術活動や展覧会の記録など、オンライン上で芸術表現を体験することのできるコンテンツを整理した。取りまとめたジャンルは、美術・人類学・演劇・映像・文化・芸術・経済・建築・音楽・パフォーマンス・デザイン・哲学・情報・写真・論文・映画、など多岐にわたる。また作成した教材は、主要な美術系大学にも共有した。 https://docs.google.com/spreadsheets/d/14Hm6eeS9iPbLOv6lk2bhGKba02GCw2hhdqOpsDfLPAE/edit?usp=sharing
３　教育上の能力に関する大学等の評価		
４　実務の経験を有する者についての特記事項 １）ワークショップ ①　音風景ワークショップ「地域の音を録音して、みんなで聞こう」	平成21年2月～平成26年10月	＜分担＞本事業は、長野県に位置する茅野市美術館が主催するサウンドスケープに着目した市民向けワークショップ講座である。参加者が地域の中にある音に耳を傾けながら、レコーダーを使った録音の方法を学び、諏訪地域や近隣地域の環境の音を録音し、「音風景コンサート」として発表するなど、複数回に渡って開催した。
②　森と木に包まれる月間：森と木に包まれる親子の絆キャンプ（木育キャンプ）「森の音のタカラさがし」	平成24年8月	＜分担＞本事業は、神奈川県小田原市農政課が主催する自然環境に着目した木育ワークショップ講座の一環である。森や木を身近に感じ、その大切さを広く認識してもらうことを目的とした様々なプログラムが実施された。「森の音のタカラさがし」では、森の中に8つの音具を設置して、参加者たちが環境の音に耳を傾ける行為を誘導するプログラムを実施した。
③　親と子の都市と建築講座「けんちく広場：子どもの建築ワークショップ」	平成28年2月～平成29年2月	＜ＲＡ＞本事業は、日本建築学会子ども教育事業部会における「親と子の都市と建築講座」の一環として開催された子ども向け建築ワークショップである。「ワラでつくる秘密基地」、「にじいろの雨をふらせよう～さらさらアート～」、「楽々けんちく図鑑をつくろう！」の３つの企画を同時進行させた。
④　秋田県立栗田支援学校・秋田公立美術大学付属高等学院合同特別講義	平成29年6月	＜分担＞本事業は、秋田公立美術大学社会貢献センターが企画する社会教育講座である。身近にある音の出る素材を持ち寄り即興コンサートを開催した。自らが音の表現者となることで、相手の音に耳を済ませる状況を作り出し、非言語コミュニケーションを体験してもらうことを試みた。
⑤　かみこあにプロジェクト「ちいさな美術部」	令和元年7月～令和元年9月	＜分担＞本事業は、KAMIプロ・リスタ実行委員会が主催する地域アートプロジェクト「かみこあにプロジェクト」において、筆者らが企画・運営した村民向けワークショップである。同プロジェクトの出展作家である貝塚歩とともに企画を立ち上げ、出展作家をゲスト講師に迎えながら計10の企画を実施した。

事　　項	年月日	概　　要
２)講演・トーク		
①　東京デザイナーズウィーク（公開トーク）	平成22年11月	＜分担＞東京デザイナーズウィーク2010国際コンテナコンペティションに入賞した作品《smiling water, dancing heart》について、明治神宮外苑に設置された特設ブースにて解説した。
②　ワールドリスニングデー（公開講座）	平成26年7月	＜分担＞Tokyo Phonographers Unionが主催するサウンドスケープに関する公開講座において、茅野市美術館で開催した展覧会「PLAY with Soundscape」でのさまざまな取り組みを東京都世田谷区に位置する「FORUM世田谷」にて解説した。
③　IMMギャラリートーク（公開トーク	平成27年9月	＜分担＞アートアクセスあだち「音まち千住の縁」によるプログラム「イミグレーション・ミュージアム・東京」の取り組みにおける作品《北千住多国籍会議》について、東京都足立区の空き家を改修した展示会場にて解説した。
④　トロールの森　アーティストトーク（公開トーク）	平成27年11月	＜単独＞東京都杉並区に位置する善福寺公園上池を会場に開催された屋外アート展「トロールの森」にて展示した作品《幻視：善福寺池》について解説した。
⑤　仮説の風景　ギャラリートーク（公開トーク）	平成29年9月	＜分担＞秋田市に位置する複合施設「アトリオン」にて開催した個展「仮説の風景」において出展した作品群を元に、制作プロセスや作品の内容について解説した。
⑥　Waterscape　オープニングトーク（公開トーク）	平成30年5月	＜分担＞秋田市に位置するギャラリー「ココラボラトリー」にて開催した２人展「Waterscape」において出展した作品群を元に、制作プロセスや作品の内容について解説した。
⑦　KEATオープニングトーク（公開トーク）	平成31年4月	＜単独＞栃木県那須郡那珂川町小砂地区で開催されているアートプロジェクト「KEAT」において展示した作品《感覚風景の陰影》について解説した。
⑧　the Narrative of the Shore オープニングトーク（公開トーク）	令和元年11月	＜単独＞タイ・バンコクに位置するギャラリー「CASE Space Revoution」にて開催された企画展「the Narrative of the Shore」において展示した作品《The First Rythm》について解説した。
⑨　ALTERNATIVE KYOTO　オープニングトーク（公開トーク）	令和3年10月	＜単独＞京都府域展開アートフェスティバル「ALTERNATIVE KYOTO 2021 in 八幡」において展示した作品《共振する躯体》について、制作プロセスや作品の内容について解説した。
⑩　複合芸術会議2022：複合芸術の幻影　オープニングトーク（公開トーク）	令和4年3月	＜単独＞秋田市文化創造館にて開催した展覧会「複合芸術会議2022：複合芸術の幻影」に出展した作品について、制作プロセスや作品の内容について解説した。
⑪　複合芸術会議2023：サバイバル複合芸術Vol.4「共生」サバイブするアートの旅	令和5年3月	＜共同＞秋田公立美術大学大学院アニュアル・シンポジウム「複合芸術会議」において、さっぽろ天神山アートスタジオに服部文祥と石川竜一を招聘し、シンポジウムを開催した。
⑫　「空間と身体のサウンドスケープ」ギャラリートーク（公開トーク）	令和5年11月	＜共同＞個展「雪面の歩行 Walk on the Snow Field」において、ゲストに美術家・ホーメイ歌手の山川冬樹を招聘し、制作プロセスや作品解説を通じて、サウンドスケープを捉えることについて議論を展開した。
⑬　「VR動画試写会＆トークセッション」登壇（公開トーク）	令和6年4月	＜共同＞古平町地域おこし協力隊の森雅人が主催するトークイベントにおいて、山谷玲奈（フードバンク株式会社代表取締役）とともに、古平町複合施設「かなえーる」で開催されたトークセッションに登壇した。

事　　項	年月日	概　　要
５　その他 １)作品賞		
①　日本空間デザイン賞	平成22年12月 ～令和4年3月	武蔵野大学EP3として制作した作品を応募 2010 優秀賞、2012 協会特別賞・入賞、2013 審査員賞・協会特別賞、2014 協会特別賞・入選、2015 協会特別賞・入選、2021 Shortlistをそれぞれ受賞
②　東京デザイナーズウィーク	平成24年11月 ～平成26年11月	武蔵野大学EP3として出展 2012 学校作品賞2作品ノミネート、2014　Asia Award 学校賞をそれぞれ受賞
③　SDA賞	平成25年11月	武蔵野大学EP3として制作した作品を応募 2013 研究・開発・実験サイン部門 入選
④　core77 Design Award	平成27年7月	武蔵野大学EP3として制作した作品を応募 2015 環境デザイン部門 優秀賞を受賞 （Professional Notable in the professional category of Build Envitonment, NYC）
⑤　LONDON INTERNATIONAL CREATIVE COMPETITION	平成27年11月	武蔵野大学EP3として制作した作品を応募 2015 佳作入選（Honorable Mention in London）
⑥　Design for Asia Award	平成27年12月	武蔵野大学EP3として制作した作品を応募 2015 環境デザイン部門 銀賞を受賞 （Silver Award in the professional category of Environmental Design, HongKong Design Center）
⑦　アジアデジタルアート大賞 FUKUOKA	平成28年2月～ 令和2年3月	武蔵野大学EP3として制作した作品を応募 2016 インタラクティブアート部門 入賞、2020 インタラクティブアート部門 優秀賞をそれぞれ受賞
⑧　A’DESIGN AWARD	平成28年6月	武蔵野大学EP3として制作した作品を応募 2016 インテリアスペース・展示デザイン部門 銀賞を受賞 （Silver A’Design Award in the professional category of Interir Space and Exhibition Design, Italy）
⑨　American Architecture Prize	平成28年10月	武蔵野大学EP3として制作した作品を応募 2016 小さな建築部門 佳作入選 （Honorable Mention in the professional category of Small Architecture, AAP）
⑩　International Design Award	平成30年7月	武蔵野大学EP3として制作した作品を応募 2018 建築部門 銀賞を受賞 （Silver in the professional category of Architecture, LA）

職務上の実績に関する事項		
事　　項	年月日	概　　要
1　資格，免許		
2　特許等		
3　実務の経験を有する者についての特記事項 ①　関東バスラッピングデザイン	平成21年4月～平成21年9月	関東バス株式会社との連携事業において、武蔵野大学関東バス３台のラッピングデザインを分担し、吉祥寺駅・三鷹駅・武蔵境駅を中心に作品《Awakening》《Link》《Growth》が装飾されたバスがそれぞれ運行。
②　武蔵野大学附属幼稚園バスラッピングデザイン	平成21年9月 平成22年4月	武蔵野大学附属幼稚園との連携事業において、園児送迎用バスのラッピングデザインを分担し、吉祥寺駅・三鷹駅・武蔵境駅を中心に作品《モザイクの果実が彩ふ》が装飾されたコースター号・ハイエース号がそれぞれ運行。
③　文化庁採択事業「PLAY with Soundscape」アートディレクション	平成25年10月～平成26年3月	株式会社地域文化創造との連携事業において、長野県茅野市に位置する茅野市民館／茅野市美術館にて開催されたサウンドスケープの祭典「PLAY with Soundscape：音風景の可能性」において、アートディレクションを担当。
④　目黒駅前地区第一種市街地再開発事業「森の広場」基本構想	平成27年4月～平成29年11月	本事業のランドスケープデザイン「森の広場」におけるサウンドスケープデザインの基本構想を分担した。人の足音を広場に響かせることで音を介したさまざまなインタラクションを提案した。
⑤　秋田空港ターミナルビル連携事業「Recording of AKITA Project」	平成29年7月～平成30年4月	秋田空港ターミナルビル株式会社と秋田公立美術大学の連携事業として、写真家の草彅裕と美術家の宮本一行による展示が企画され、秋田の豊かな自然環境をモチーフとした作品を空港ビル内に展示した。
⑥　秋田県若手アーティスト育成支援事業「仮説の風景」	平成29年7月～9月	若手アーティストの育成支援を目的とした秋田県事業に採択され、事業担当者（学芸員）と共に筆者の個展を開催するに至った。
⑦　秋田県若手アーティスト育成支援事業 記録撮影	平成30年4月～平成31年3月	若手アーティストの育成支援を目的とした県事業に採択され、実施された10組の個展の記録撮影を担当。撮影された写真は図録に使用。
⑧　秋田県観光スポーツ部文化振興課「あきたの美術」記録撮影	平成30年10月	秋田県のアートシーンを紹介する秋田県事業において、現代美術部門、平面作品部門の２部門の記録撮影を担当。撮影された写真は図録に使用。
⑨　アートプロジェクト「かみこあにプロジェクト」アートディレクター	平成31年4月～令和5年3月	秋田県内陸中央に位置する上小阿仁村にて開催された地域アートプロジェクト「かみこあにプロジェクト」において、現代アート部門のディレクターを担当。
⑩　JR貨物株式会社連携事業「ConPro」	令和4年4月～6月	JR貨物株式会社と札幌大谷大学の連携事業として、『貨物鉄道フェスティバル』において研究室の学生と共にコンテナ内にインタラクティブ・アートの作品展示を行った。
⑪　株式会社きたまいか連携事業「ヴァーチャル展覧会の設計」	令和4年12月～現在	株式会社きたまいかと札幌大谷大学の連携事業として、芸術学部美術学科のオンライン展覧会を実施することを目的に有志学生とともに制作活動を続けている。
4　その他 ①　2019年度秋田公立美術大学競争的研究費「芸術情報学の萌芽に向けた予備実験実施」	令和元年6月～令和2年3月	本研究では、情報科学における技術・技法を用いて、芸術分野そのものの解析を試みる。このような超芸術研究を芸術情報学と名付け、その萌芽にむけた予備実験を実施する。 研究代表者：飯倉宏治　共同研究者：土方大，宮本一行

事　　項	年月日	概　　要
②　2020年度秋田公立美術大学競争的研究費「インスタレーションにおける共感覚的知覚に関する研究」	令和2年6月～令和3年3月	本研究では、視聴覚間に生まれる認識の「ズレ」が重なり合う地点＝共感覚的知覚が、インスタレーションの鑑賞体験にどのような形で関係付けられるのかを類似する作品群から分析する。そして、視聴覚に対して相互的アプローチを図る芸術表現のひとつのあり方を示すことを試みる。 研究代表者：宮本一行
③　ヴァーチャル観光プロジェクト	令和5年5月～令和6年3月	本研究では、高齢者に対するレクリエーションや文化的な体験の提供を試みる。福祉施設で過ごす高齢者の心身の健康を向上させることを目的に、VRコンテンツの整備とその効果を検証する。 研究代表者：島名毅　共同研究者：宮本一行、森雅人

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 1　サウンド・オブ・ウェザー	共著	平成26年5月	武蔵野美術大学	武蔵野美術大学とロイヤルメルボルン工科大学の学生と研究者による異文化芸術および調査プロジェクト。音やビデオ、パフォーマンスを通じて、天候に関する体験や行動を調査した。メルボルンや東京近郊の都市部からオーストラリア高山の荒涼とした土地にまで及ぶ様々な場所の組み合わせの中で、アーティストがどのように天気の影響を切り取ろうと試みたのか、広範に及ぶ調査記録をまとめた冊子である。日本語と英語を併記している。 ※プロジェクトメンバーにより相互取りまとめて執筆・編集しているため、担当部分抽出不可能
2　ここにある音　ここからはじまる　茅野市美術館の音風景	共著	平成29年3月	茅野市美術館	茅野市民館／茅野市美術館では、館内にサウンドスケープデザインが内装されている。これまで「風景」という言葉のもつ〈人がとらえる〉という主体性に目を向け、それを「音」を介して探る試みを実践してきた。2008年度から5年間に渡り継続してきた「音風景ワークショップ」、2013年度に取り組んだ「PLAY with Soundscape：音風景の可能性」の開催など、茅野市美術館での活動をまとめた冊子である。 ※プロジェクト主要メンバーにより相互取りまとめて執筆しているため、担当部分抽出不可能
3　Outer Edge / 知覚の外縁	共著	令和3年5月	Outer Edge Book Design Team	音響表現を専門とする宮本一行と建築設計やインスタレーションの制作を続ける船山哲郎が協働した展覧会のドキュメントである。本展では、視覚・聴覚・触覚からなる3つの感覚を組み合わせることによって、知覚の外縁に触れることを試みた。ホワイトキューブ内に特定の自然環境を再構築することを通じて、我々が空間を体験する上で認識している様々な感覚の関係性を読み解いた。日本語と英語を併記している。 著者：宮本一行，船山哲郎 ASIN：B096B9834Q

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（学術論文） １　景観を想起させる新しい写真技法の考察	単著	平成29年3月	武蔵野大学環境研究所紀要(6)、pp. 47-58	本論文は、記憶の中にある景観を想起させる新しい写真技法の提示を試みた研究報告である。現在、写真は視覚的な記録と伝達を行う手段として人々の生活に欠かせないものとなっている。しかし記録を残す「行為」が目的となり、視覚的無意識の中で身の回りの景観を意識的に見る機会が少なくなったことが懸念される。そこで、芸術写真の写真技法をまとめ、写真そのものの特徴を捉え直すことで、新たな写真技法のあり方を考察した。
２　デジタルカメラにおける新しいピクトリアリスムの写真制作	単著	平成30年3月	秋田公立美術大学研究紀要(5)、pp. 73-80	本論文は、秋田県秋田市に位置する文化施設「アトリオン」で開催した個展「仮説の風景」の研究報告である。本展では、人間の視覚情報と映像メディアの情報との差異に着目して、網膜に映っている光景を映像メディアによって視覚化することを試みた。独自の現像システムを構築することで、写実性が加わった抽象画面を作り出し、現代のテクノロジーによって可能になった新しい芸術写真の意義や価値について考察した。
３　芸術分野を解析対象とする芸術情報学の紹介	共著	令和2年3月	映像情報メディア学会技術報告(44-10)、pp. 473-474	本論文は、芸術分野における人間の活動をデータ化し、それらを計算機により解析・分析する芸術情報学に関する研究報告である。芸術情報学は既に確立されたものではなく、筆者らが立ち上げを目指している研究分野・領域である。本稿では、芸術情報学を紹介すると共に立ち上げの可能性を探るために実施した予備実験の結果についても報告する。予備実験は、秋田公立美術大学の関係者が主催・開催した、いくつかの講演会や研究集会での発言を対象とした。 著者：宮本一行（代表執筆者）、土方大，飯倉宏治
４　音響芸術がもたらす新たな聴取	単著	令和2年3月	秋田公立美術大学研究紀要(7)、pp. 45-58	本論文では、騒音を素材とする20世紀以降の芸術音楽から音響芸術に至る系譜をまとめるとともに、音響を通じて社会構造を把握できる聴取の可能性について考察した研究報告である。その中心にいるケージの影響を受けながらも特定の場所や空間に実在する音を素材として独自の発展を見せた芸術実践を取り上げ、それらの表現手法の特徴を分析した。本稿では、鑑賞者の身体的な行為の延長にある感覚的な聴取を獲得することで、普段聞き流している音にも耳を傾けることができる可能性を提示した。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（学術論文） ５　「流れ橋」との身体的対話	単著	令和3年3月	秋田公立美術大学研究紀要(8)、pp.43-51	本論文は、京都府八幡市に位置する流れ橋での調査活動を通じて、特定の環境と対話する身体のあり方について考察した研究報告である。自己の身体だけでなく、他者としてのモノとともに音を生み出す行為を通じて、自らの身体内部に響いている音に意識を向けることができた。本稿では、音を発することと音を聴き取ることを個別に捉えるのではなく、一つの複合的な行為として捉え直すことによって、特定の環境と対話する身体の一つのあり方を示した。
６　里山の音風景から導く環境芸術（査読付き）	共著	令和3年5月	環境芸術学会誌(26)、pp.71-78	本論文は、秋田県上小阿仁村八木沢集落および栃木県那珂川町小砂地区において、筆者らが取り組んだインスタレーション作品上でのサウンド・パフォーマンスに関する研究報告である。これまでに実施した3つのパフォーマンスを音楽的聴取という概念を用いて捉え直すとともに、作品の鑑賞体験における聴取のあり方について考察した。本稿では、周辺環境を手がかりに表現した作品・演奏を捉え直すことによって、里山の音風景から導く環境芸術の一つのあり方を示した。 著者：宮本一行（筆頭著者）、船山哲郎
７　アーティストと画像生成AIにおける協働制作に関する研究	共著	令和5年3月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要第53号、pp.1-17	本論文は、グラフィック・イラスト表現や情報デザインを専門とする筆者らが、画像生成AIを活用した芸術実践に関する一連の制作研究報告である。画像生成AIの成り立ちから現在に至るまで、主要なAIモデルの特徴をまとめるとともに、作品制作のプロセスやAIモデルとの関係を整理しながら、アーティストと画像生成AIにおける協働制作の在り方について考察した。筆者らの芸術実践を通じて、リサーチ＝ベース・アートの制作手法を用いて画像生成　AIを活用することで、アーティストと画像生成　AIにおける協働制作の一つの在り方を提示した。 著者：島名毅、宮本一行（責任著者）

著書・学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所,発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（学術論文） ８　残余空間から描き出す環境芸術（査読付き）	共	令和5年7月	環境芸術(30)、pp.88-96	本論文は、筆者らが秋田県秋田市で2021年2月から5月にかけて開催した展覧会《Outer Edge/知覚の外縁》の制作研究報告である。展覧会開催に至るまでの制作手法を整理し、「残余空間」の視点から読み解くことで、屋内展示空間における環境芸術作品のあり方を述べた。本制作においては、残余空間の視点を通じて、日常では意識されないようなディテールへと鑑賞者の視線を誘導する空間を制作したことによって、鑑賞者の態度によって主体が能動的に入れ替わり、展示室内における図と地の関係が断続的に反転する空間が構築されたものと考えている。 著者：船山哲郎、宮本一行（責任著者）
９　土地と身体から紡ぎ出される環境芸術（査読付き）	単	令和5年7月	環境芸術(30)、pp.97-102	本論文は、筆者が参加した京都府八幡市のアーティスト・イン・レジデンス事業「京都：Re-Search 2020 in 八幡」における地域調査と、展覧会「オルタナティブ京都：もうひとつの京都」にて制作した作品《共振する躯体》に関する一連の制作研究報告である。地域調査や作品制作のプロセス、またそれらの関係性を整理しながら、土地と身体から紡ぎ出される環境芸術のあり方について考察した。本稿では、調査対象とアーティストの身体体験によって作品化されるとともに、鑑賞者が作品を体験することで成立するものである。また、自己の身体感覚によって生み出される作品と他者の身体感覚を引き出す作品、両者の異なる身体体験を意識的に取り入れることによって、土地と身体から紡ぎ出される環境芸術の一つのあり方を提示した。

著書・学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所,発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（学術論文） 10　音環境と協奏する芸術実践：聴取のための複合芸術研究	単	令和6年3月	博士論文、秋田公立美術大学	本研究は、これまで国内外各地の様々な環境において、その場所を満たしている音環境と協奏する芸術実践を多数行ってきた筆者が、サウンドケープを人間が発する音も含めた本来的な音環境として改めて捉え直すための新たな芸術実践論を提示することを目的としたものである。まず、二十世紀以降の音環境を主題とする主要な作品群を取り上げ、それらの聴取体験の諸特徴を分析した。次に、音を創造することとその音を聴くことを同時に行うことを意識して取り組んだ筆者の四つの芸術実践を事例とし、「成し手」と「聴き手」の二つの立場からそれらの聴取体験を分析した。そして、人間が発する音も含めた本来的な音環境の捉え方に関する諸特徴を明らかにするとともに、鑑賞体験を通じて本来的な音環境を捉える身体感覚を引き出す新たなインスタレーション・アートを制作することで、「音環境を捉えることとは何か」という根源的な問いに対する一つのあり方を提示した。
（演奏） 1　Voyage	単	平成22年6月	アップルストア銀座（東京都中央区）	アップルストア主催「College Night」においてソロパフォーマンスを発表（ラップトップ）
2　NAKANO Ambient	共	平成22年7月	カウントダウンギャラリー桃園画廊（東京都中野区）	企画展「COME HOME」においてコラボレーションパフォーマンスを発表（身体表現）
3　smiling water	単	平成22年9月	九段下ギャラリーCORSO（東京都千代田区）	企画展「チケットの予約」においてソロパフォーマンスを発表（ラップトップ）
4　Bubles Guitar	共	平成22年10月	ギャラリーSEPTIMA（東京都立川市）	企画展「港」においてコラボレーションパフォーマンスを発表（エレキギター、ラップトップ）
5　Insect Legs	単	平成23年7月	アップルストア銀座（東京都中央区）	アップルストア主催「College Night」においてソロパフォーマンスを発表（ラップトップ）
6　チューバと自動車と器楽、声楽のための魚市場 -ねぎま鍋付き	共	平成23年10月	東京中央卸売市場足立市場（東京都足立区）	アートアクセスあだち（音まち千住の縁）主催「足立智美コンサート」において演奏（トロンボーン）
7　Ryo-anji	共	平成23年11月	首都圏外郭放水路（埼玉県春日部市）	日豪合同プロジェクト「Sounds of Weather」においてコラボレーションパフォーマンスを発表（トロンボーン）
8　Trombone and Water	単	平成23年11月	六本木スーパーデラックス（東京都港区）	日豪合同プロジェクト「Sounds of Weather」においてソロパフォーマンスを発表（トロンボーン、ラップトップ）

著書・学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所,発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（演奏） 9　Onomatopeia in Tokyo	共	平成23年11月	六本木スーパーデラックス（東京都港区）	日豪合同プロジェクト「Sounds of Weather」においてコラボレーションパフォーマンスを発表（トロンボーン）
10　Water Storage Dum for Bass Trombone then Laptop	共	平成24年2月	WEST SPACE（メルボルン、オーストラリア）	日豪合同プロジェクト「Sounds of Weather」においてコラボレーションパフォーマンスを発表（トロンボーン、ラップトップ）
11　Onomatopeia in Melbourne	共	平成24年2月	WEST SPACE（メルボルン、オーストラリア）	日豪合同プロジェクト「Sounds of Weather」においてコラボレーションパフォーマンスを発表（トロンボーン）
12　Live Environment	共	平成24年4月	TORIAギャラリー（東京都杉並区）	ジョン・ケージ生誕100周年を記念する「WINDS CAFE #184」においてコラボレーションパフォーマンスを発表（トロンボーン）
13　Visual hallucination	単	平成26年3月	茅野市民館マルチホール（長野県茅野市）	サウンドスケープ企画展「PLAY with Soundscape」においてソロパフォーマンスを発表（トロンボーン、ラップトップ）
14　Visual Hallucination	単	平成26年7月	FORUM世田谷（東京都世田谷区）	R.マリー・シェーファー生誕祭「World Listening Day」においてソロパフォーマンスを発表（トロンボーン、ラップトップ）
15　Visual Hallucination	単	平成27年1月	茅野市美術館（長野県茅野市）	企画展「Perceptual Domain」においてソロパフォーマンスを発表（トロンボーン、ラップトップ）
16　Environmental Assemblage	共	平成30年2月	アラヤイチノ（秋田県秋田市）	ヴロツワフと秋田を繋ぐワークイン・プログレス型の企画において、秋田側の監修者として招聘。共演作家を選定して、オンラインでの相互配信によるサウンド・パフォーマンスを公演した。（ラップトップ）
17　Performance on Installation Yagisawa	共	平成30年9月	水稲舞台（秋田県北秋田郡上小阿仁村八木沢集落）	萩形ダムの放水から聞き取れる壮大な持続音を主題とし、その低周波数域をトロンボーンで再現した。また、音を発するために必要な呼吸を取る「間」を意識的に作ることによって、放水の間隔を表現した。そして、撮影のために使用したドローンの継続的な羽音は、小阿仁川の水音の倍音を示した。さらに、八木沢集落のかつての音風景には、森林鉄道を走る機関車の音が特徴的であったと考えられる。記録として残されていない森林鉄道の音風景にも想像を巡らせ、集落に響いていたであろう汽笛の音響を表現の一部として取り入れることも試みた。（トロンボーン）

著書・学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所,発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（演奏） 18　Performance on Installation Koisago	共	令和元年5月	ひとつながりの長椅子／共生の跡（栃木県那須郡那珂川町小砂）	2018年12月から2019年5月の間、断続的ではあるが、小砂地区に計40日間滞在した。「小砂焼き」と呼ばれる陶芸体験をはじめ、火祭り行事「どんと焼き」や那珂川町のお祭り「花の風まつり」、また稲の収穫現場の見学やジビエ料理の食事など、さまざまな地域文化に触れてきた。滞在中に見聞きしたこのような日常生活の中にある特徴的な音をトロンボーンで模倣するように示した。さらに、パフォーマンスを早朝に実施することで、普段は人々の賑わいにかき消されている自然環境が発する微細な音を、表現の一部として取り入れることも試みた。（トロンボーン）
19　Performance on Installation Yagisawa	共	令和元年9月	山見櫓／八木沢参道（秋田県北秋田郡上小阿仁村八木沢集落）	八木沢参道として掛けられた桟橋上では、夜間に体験した経験に基づき、周期的で快い調子を持った虫の鳴き声を模倣した。また、トロンボーンの楽音としての音域から外れた「音にならない低音域」を発することで、何者かの気配に対する畏怖を示した。一方で、山見櫓として建てられた櫓上では、山神神社が鎮座する筑紫山に望む日の出を拝むために、祈りとしての音響を表現した。日の出を拝むまでの1時間、トロンボーンを鳴らし続けることによって、山の神々に対する敬意を示した。（トロンボーン）
20　Performance on Installation Bangkok	単	令和元年11月	CASE Space Revolution（タイ・バンコク）	都市の夜景は、人為的に作り出された誰もが美しいと感じる風景である。その様々な光源が揺れ動く姿は、自然現象としての海と同様に、われわれの心に大きな安らぎを与えてくれる。都市の音風景は、複雑な要素で構成される海とは違い、単一で機械的な騒音の重なりから構成されている。その単一な騒音にうねりや抑揚をつけていく行為を通じて、風や雨などの非生物によって多彩に変容する「日本海」の音風景を、バンコクの夜景に映し出すことを試みる。（トロンボーン）

著書・学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所,発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（演奏） 21　ECHO Point Walk	単	令和元年12月	秋田公立美術大学（秋田県秋田市）	本作は、音を介して環境を知ることを目的とした一連のサウンド・パフォーマンスである。秋田公立美術大学敷地内を舞台とし、特別な反響効果を体感できる場所、すなわちエコーポイントにおいて、バストロンボーンを演奏して歩いて回った。かつて鉄道汽車が通っていたプラットフォームをはじめ、天井面とのフラッターエコーが発生するアプローチやピロティ、建物の外壁が音の反射板となって周囲の環境音を拡張させるグラウンドやシンメトリー、そして吹き抜け空間が長い残響時間をもたらす「アトリエももさだ」にてパフォーマンスを発表した。（トロンボーン）
22　Performance on Installation Fukura	共	令和2年1月	十六羅漢岩（山形県飽海郡遊佐町）	吹浦海禅寺21代寛海和尚が制作した《十六羅漢像》海岸上にて実施したサウンド・パフォーマンスである。和尚は、日本海の荒波で命を失った漁師諸霊の供養と海上安全を願って、1864年に造佛を発願し、5年の年月をかけて明治元年22体の磨崖仏を地元の石工たちを指揮して完工した。これだけの規模で岩礁に刻まれているのは日本海側ではここだけだと言われている。それを受けて、宮本は、昼間と夜間に十六羅漢像が設置された海岸に身を置き、姿を変えながら永遠に生き続ける海のリズムを五感で感じ取り、その感覚を自らの身体で感じ取りながらバストロンボーンを演奏することを通じて、全周波数にわたる水の鼓動と調和する音響を作り出すことをねらった。（トロンボーン）
23　Site Study of Hieizan	単	令和2年3月	比叡山（滋賀県大津市）	滋賀県大津市山中町に位置する共同アトリエ「山中スープレックス」に滞在し、比叡山中にて取り組んだ一連のサウンド・パフォーマンスである。本実践は、演奏するバストロンボーンの音響が環境の反応の触媒となることで、人間と環境の相互作用によって作り出された音楽的表現を試みた。これらの聴取を通じて、現地の音環境を理解するための「准環境」として作品を提示した。（トロンボーン）

著書・学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所,発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（演奏） 24　流れ橋との身体的対話	単	令和3年9月	上津屋橋（京都府八幡市から久御山町）	京都府八幡市に位置する流れ橋の橋板を一定のリズムで踏み鳴らしていくサウンドパフォーマンスである。自己の身体だけでなく、他者としてのモノとともに音を生み出す行為を通じて、自らの身体内部に響いている音に意識を向けることができた。都市の中のオブジェクトをひとつの鍵盤打楽器として捉え直すことによって、目には見えない内的構造を顕在化させた。（身体表現）
25　忍び足	単	令和3年10月	ブルーホール（秋田県潟上市）	日本酒を保管する酒蔵を改修したギャラリー空間において、音を介して空間を図ることを目的としたサウンドパフォーマンスである。築98年の木造建築は、柱間や２階床板が外され、耐震補強がなされている。しかし、床板は当時のまま使用されており鶯ばりの板のように足音が空間に鳴り響くことに着目し、物音を立てないように建物内を歩いて回るパフォーマンスをおこなった。（身体表現）
26　残響	共	令和3年3月	点線面（秋田県秋田市）	2021年から新たに作られたオルタナティブ・スペース「点線面」にて、nost/OVOの個展「残響」のためのサウンド・パフォーマンスを公演した。（トロンボーン）
27　One day of Outer Edge	共	令和3年4月	Outer Edge / 知覚の外縁（BIYONG POINT、秋田県秋田市）	インスタレーション作品「Outer Edge/ 知覚の外縁」の鑑賞体験をアーカイブとして記録に残すことを試みたサウンド・パフォーマンスである。鑑賞者は、インスタレーション作品内を移動することに伴い、聴取のあり方が移り変わる体験をもたらす。そのため、鑑賞者の動きを想定したシークエンスを作成して、会場を歩く行為と、表現としての電子音響を誇張するようにテルミンで演奏するパフォーマンスを組み合わせた。
（出品） 1　Photon Garden	共	平成20年10月～11月	東京デザイナーズウィーク2008 国際コンテナ展（明治神宮外苑、東京都新宿区）	日本最大級のデザインイベント「東京デザイナーズウィーク」において、国際コンテナコンペティションに採択され、20ftコンテナに展示した。
2　Trans Flowers	共	平成21年10月～11月	神戸ビエンナーレ2009 グリーンアート展（メリケンパーク、兵庫県神戸市）	神戸市中央区で開催された現代美術を軸にする国際的な芸術文化の祭典「神戸ビエンナーレ」において、グリーンアートコンテナコンペティションに採択され、20ftコンテナに展示した。

著書・学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所,発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（出品） 3　Photon Garden	共	平成21年11月～12月	HKDA Asia Design Award 09 Exhibition（Exhibition Hall, Hong Kong City Hall Low Block 、香港中央区）	香港デザインセンターが主催する世界的なデザイン賞「HKDA Asia Design Award」の受賞作品展において、パネル展示された。
4　Photon Garden	共	平成21年12月	AIA DesCours 09（CBD地区路上、アメリカ・ニューオーリンズ）	アメリカ国内外から選出された13組の建築家とアーティストがニューオーリンズでインスタレーションを行う「AIA DesCours 09」において、20ftコンテナに展示した。
5　Photon Garden	共	平成22年3月	JAPAN SHOP 2010 領域や垣根を感じさせない空間デザイン展（東京国際展示場、東京都江東区）	日本最大級の店舗総合見本市「JAPAN SHOP」の特別企画「領域や垣根を感じさせない空間デザイン」展にて、パネル展示された。
6　smiling water, dancing heart	共	平成22年10月～11月	東京デザイナーズウィーク2010 国際コンテナ展（明治神宮外苑、東京都新宿区）	日本最大級のデザインイベント「東京デザイナーズウィーク」において、国際コンテナコンペティションに採択され、20ftコンテナに展示した。
7　個展「浮遊する光景の中へ」展	共	平成23年2月	個展（プロジェクトとして）「浮遊する光景の中へ」展（パナソニックセンター東京ピアッツァ、東京都江東区）	建築家の風袋宏幸が監修するデザインチーム「EP3」による個展「浮遊する光景の中へ」展において、作品《Photon Garden》《Sway of Colors》《漂う木立》を展示した。
8　River on Duct	単	平成24年3月	Borrowed Landscape（PROJECT SCAPE / RMIT University、オーストラリア・メルボルン）	日豪合同アートプロジェクト「Sounds of Weather」に参画し、展覧会「Borrowed Landscape」にて、展示した。
9　傘もよう	共	平成24年10月	AACA第一回国際コンペティション 展（建築会館１階ギャラリー、東京都目黒区）	日本建築美術工芸協会が主催するコンペティション「AACA第一回 国際コンペティション」において、受賞作品展においてパネル展示された。
10　Heap of time	単	平成24年10月～11月	Sounds of Weather 2012	日豪合同アートプロジェクト「Sounds of Weather」に参画し、展覧会「Sounds of Weather 2012」にて、展示した。
11　Scroll Hut	共	平成24年10月～11月	東京デザイナーズウィーク2012 学校作品展（明治神宮外苑、東京都新宿区）	日本最大級のデザインイベント「東京デザイナーズウィーク」において学校作品展の選考を通過し、20ftコンテナに展示した。
12　Pattern	共	平成24年10月～11月	東京デザイナーズウィーク2012 学校作品展（明治神宮外苑、東京都新宿区）	日本最大級のデザインイベント「東京デザイナーズウィーク」において学校作品展の選考を通過し、20ftコンテナに展示した。
13　Architectural Pod	共	平成25年3月	JAPAN SHOP 2013 魅せる商空間 展（東京国際展示場、東京都江東区）	日本最大級の店舗総合見本市「JAPAN SHOP」の特別企画「魅せる商空間」展にて、パネル展示された。

著書・学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所,発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（出品） 14　幻視：三国山	単	平成25年11月	うづのみ芸術祭2013（山中湖交流プラザ、山梨県南都留群山中湖村）	山梨県山中湖村で開催された「自然」をテーマとした芸術祭「うづのみ芸術祭」において入賞し、山中湖交流プラザにて作品を展示した。
15　Scale	共	平成25年12月	ライティング・オブジェ2013（東京ビルTOKIAガレリア、東京都千代田区）	地球環境に向けたメッセージを発信する光の祭典「ライティング・オブジェ2013」において、武蔵野大学EP3が招聘され、展示した。
16　幻視：三国山	単	平成26年1月～2月	2013アジアデジタルアート大賞展（福岡アジア美術館、福岡県福岡市）	世界規模で展開するメディアアートの公募展「アジアデジタルアートアワード」において入賞し、福岡アジア美術館で作品が展示された。
17　Sky Ear	共	平成26年2月	イミグレーション・ミュージアム・東京 不思議な出会い（日の出団地スタジオ、東京都足立区）	AAA音まち千手の縁「イミグレーション・ミュージアム・東京」に参画し、企画展覧会「イミグレーション・ミュージアム・東京：不思議な出会い」にて、作品を展示した。
18　Pattern	共	平成26年3月	JAPAN SHOP 2014 空間思考。2013年とこれから 展（東京国際展示場、東京都江東区）	日本最大級の店舗総合見本市「JAPAN SHOP」の特別企画「空間思考。2013年とこれから」展にて、パネル展示された。
19　coMiMinication × Oto-Hotaru	共	平成26年3月	PLAY with Soundscape 音風景の可能性（茅野市民館／茅野市美術館、長野県茅野市）	企画展覧会「PLAY with Soundscape：音風景の可能性」において、作品を展示した。
20　Reverb Scape 2014	共	平成26年10月～11月	東京デザイナーズウィーク2014 学校作品展（明治神宮外苑、東京都新宿区）	日本最大級のデザインイベント「東京デザイナーズウィーク」において、学校作品展の選考を通過し、作品を屋外展示会場に出展した。
21　幻視：山中湖	単	平成26年11月～12月	うづのみ芸術祭2014（山中湖交流プラザ、山梨県南都留群山中湖村）	山梨県山中湖村で開催された「root」をテーマとした芸術祭「うづのみ芸術祭」において入賞し、山中湖交流プラザにて作品を展示した。
22　Reverb Scape 2015	共	平成26年12月	ライティング・オブジェ2014（東京ビルTOKIAガレリア、東京都千代田区）	地球環境に向けたメッセージを発信する光の祭典「ライティング・オブジェ2014」において、武蔵野大学EP3が招聘され、作品を展示した。
23　企画「Perceptual domain Group show」	共	平成27年1月	Perceptual domain Group show（茅野市美術館、長野県茅野市）	企画展覧会「Perceptual domain Group show」において、作品《幻視》シリーズ5組26点を展示した。
24　北千住オルタナティブ・ストーリー	共	平成27年2月	イミグレーション・ミュージアム・東京 出会いのかたち（日の出団地スタジオ、東京都足立区）	AAA音まち千手の縁「イミグレーション・ミュージアム・東京」に参画し、企画展覧会「イミグレーション・ミュージアム・東京：出会いのかたち」にて、作品を展示した。

著書・学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所,発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（出品） 25　Scale	共	平成27年3月	JAPAN SHOP 2015 空間デザイン4団体の『アワード』と『今』。展（東京国際展示場、東京都江東区）	日本最大級の店舗総合見本市「JAPAN SHOP」の特別企画「空間デザイン4団体の『アワード』と『今』。」展にて、パネル展示された。
26　Reverb Scape 2015	共	平成27年4月	Milano Salone：Tortona Design Week「TOKYO DESIGN WEEK in Milano」（Padiglione Visconti（Via Tortona 5, Milano, Italy）	世界的に権威のあるデザインの祭典「ミラノサローネ」、市内イベントであるフオーリサローネの中でも特に注目を集めるトルトーナ地区で開催された「TOKYO DESIGN WEEK in Milano」において、武蔵野大学EP3として招聘され、作品を展示した。
27　Reverb Scape 2015	共	平成27年5月	池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館 池袋アートギャザリング（東京芸術劇場、東京都豊島区）	池袋の街とアーティストをつなぐプロジェクト「池袋アートギャザリング」において、作品《Reverb Scape》が公募選考を通過し、東京芸術劇場にて作品を展示した。
28　北千住多国籍会議	共	平成27年9月	イミグレーション・ミュージアム・東京 普段着のできごと（東京都足立区千住曙町）	AAA音まち千手の縁「イミグレーション・ミュージアム・東京」に参画し、企画展覧会「イミグレーション・ミュージアム・東京：普段着のできごと」にて、作品を展示した。
29　Elephant Shower	共	平成27年10月～11月	スマートイルミネーション横浜2015（象の鼻パーク、神奈川県横浜市）	横浜都心臨海部を舞台に新たな夜景の創造を試みる国際アートイベント「スマートイルミネーション横浜」において公募選考を通過し、象の鼻パークにて作品を展示した。
30　幻視：善福寺池	単	平成27年11月	トロールの森2015（都立善福寺公園、東京都杉並区）	杉並区に位置する都立善福寺公園を舞台とした国際野外アート展「トロールの森」において公募選考を通過し、善福寺池上池の外周８箇所にそれぞれ作品を展示した。
31　幻視：善福寺池	単	平成27年11月	西荻アートスクランブル（GALLERY 494、東京都杉並区）	「トロールの森2015」と「GALLERY 494」の共同企画展「西荻アートスクランブル」において、アーティストとして選出され、トロールの森の出展作品をギャラリー用に再編集して展示した。
32　Scroll Hut	共	平成27年12月	Business of Design Week：DFA Award Exhibition（Hong Kong Convention and Exhibition Centre、香港中央区）	香港デザインセンターが主催する世界で最も優れたデザイナーやビジネスリーダーを招集し、新たなネットワークを構築する「Business of Design Week」において、作品《Scroll Hut》がパネル展示された。
33　Elephant Shower	共	平成27年12月	ライティング・オブジェ2015（東京ビルTOKIAガレリア、東京都千代田区）	地球環境に向けたメッセージを発信する光の祭典「ライティング・オブジェ2015」において、武蔵野大学EP3が招聘され、作品を展示した。

著書・学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所,発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（出品） 34　企画「けんちく広場 子どもの建築ワークショップ」	共	平成28年2月	けんちく広場 子どもの建築ワークショップ 展（建築会館、東京都目黒区）	子どもの住まい・まちづくり教育に関わる日本建築学会に所属する専門家らによるワークショップ「けんちく広場」にて作られた成果物を展示した。
35　Reverb Scape 2015	共	平成28年2月～3月	2015アジアデジタルアート大賞 展（福岡アジア美術館、福岡県福岡市）	世界規模で展開するメディアアートの公募展「アジアデジタルアートアワード」において入賞し、福岡アジア美術館で作品を展示した。
36　Reverb Scape 2014	共	平成28年3月	JAPAN SHOP 2016 今、KUKANが面白い！展（東京国際展示場、東京都江東区）	日本最大級の店舗総合見本市「JAPAN SHOP」の特別企画「今、KUKANが面白い！」展にて、パネル展示された。
37　Scroll Hut	共	平成28年3月	JAPAN SHOP 2016 今、KUKANが面白い！展（東京国際展示場、東京都江東区）	日本最大級の店舗総合見本市「JAPAN SHOP」の特別企画「今、KUKANが面白い！」展にて、パネル展示された。
38　Scroll Hut	共	平成28年6月	A’Design Award Winners’Exhibition（MOOD: Museum of Outstanding Design（Como, Italy))	世界最大規模の総合的デザイン賞である「A’DESIGN AWARD」の受賞作品展において、パネル展示された。
39　Scroll Hut	共	平成28年7月～8月	A’Design Award Award Winning Design Exhibition（Cube Design Museum(Kerkrade, Netherland））	世界最大規模の総合的デザイン賞である「A’DESIGN AWARD」の受賞作品展において、作品《Scroll Hut》がパネル展示された。
40　企画「けんちく広場 子どもの建築ワークショップ」	共	平成29年2月	けんちく広場 子どもの建築ワークショップ 展（建築会館、東京都目黒区）	子どもの住まい・まちづくり教育に関わる日本建築学会に所属する専門家らによるワークショップ「けんちく広場」にて作られた成果物を展示した。
41　企画「Recording of AKITA Project」	共	平成29年7月～平成30年4月	Recording of AKITA Project（秋田空港1Fカフェラウンジ、手荷物受取場（秋田県秋田市）	秋田空港ターミナルビル株式会社と秋田公立美術大学の連携事業として、写真家の草彅裕と美術家の宮本一行による企画展示が開催され、作品《幻視：小阿仁川》シリーズ7点を展示した。
42　幻視：小阿仁川	単	平成29年8月～9月	かみこあにプロジェクト2017（八木沢集落、秋田県上小阿仁）	秋田県北部に位置する上小阿仁村が取り組む、里山の魅力を発信するプロジェクト「かみこあにプロジェクト2017」において、屋外会場にて作品を展示した。
43　個展「仮説の風景」	単	平成29年9月	個展「仮説の風景」（アトリオン、秋田県秋田市）	秋田県が主催する「若手アーティスト育成支援事業」において応募企画が採択され、個展にて秋田の豊かな自然環境をテーマに制作した新作「幻視シリーズ」4組44点を展示した。

著書・学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所,発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（出品） 44　幻視：久保田城	単	平成30年1月	ACTアート大賞 展（The Artcomplex Center of Tokyo、東京都新宿区）	平面作品のアートアワード「ACTアート大賞展」において1次審査を通過し、作品が展示された。
45　企画「Waterscape」展	共	平成30年5月	企画「Waterscape」展（ココラボラトリー、秋田県秋田市）	写真家の草彅裕と美術家の宮本一行による、秋田の自然をテーマとした企画展において、作品《幻視》シリーズ6組20点を展示した。
46　Reflections	共	平成30年8月～9月	かみこあにプロジェクト2018（八木沢集落、秋田県上小阿仁村）	秋田県北部に位置する上小阿仁村が取り組む、里山の魅力を発信するプロジェクト「かみこあにプロジェクト2018」において、作品《幻視》シリーズを水面に浮かべて展示した。
47　Recollections	共	平成30年8月～9月	かみこあにプロジェクト2018（沖田面集落、秋田県上小阿仁村）	秋田県北部に位置する上小阿仁村が取り組む、里山の魅力を発信するプロジェクト「かみこあにプロジェクト2018」において、旧小学校校歌を題材としたサウンドインスタレーション作品を展示した。
48　感覚風景の陰影	共	平成31年4月～5月	KEAT 小砂環境芸術祭2019（旧馬頭西小学校、栃木県那珂川町）	「日本で最も美しい村・小砂(こいさご)」の里山を美術館に見立て「里山とアートの関係性」を提示するアートプロジェクト「KEAT」に招聘され、作品《感覚風景の陰影》を展示した。
49　企画「かみこあにプロジェクト2019 Pre-Exhibition」	共	令和元年6月	企画「かみこあにプロジェクト2019 Pre-Exhibition」（あきた文化交流情報センター、秋田県秋田市）	秋田県北部に位置する上小阿仁村が取り組む、里山の魅力を発信するプロジェクト「かみこあにプロジェクト2019」におけるプレ展覧会を監修した。
50　企画「かみこあにプロジェクト2019」	単	令和元年8月～9月	かみこあにプロジェクト2019（旧沖田面小学校・八木沢集落、秋田県上小阿仁村）	秋田県北部に位置する上小阿仁村が取り組む、里山の魅力を発信するプロジェクト「かみこあにプロジェクト2019」において、アートディレクターとして芸術祭全体を包括するインスタレーションを展示した。
51　The First Rhythm	単	令和元年11月～12月	The Narrative of the Shore（CASE Space Revolution、タイ・バンコク）	キュレーターのアノタイ・オウプカムによる企画「The Narrative of the Shore」にアーティストとして招聘され、日本海とバンコクの音に着目した作品を展示した。
52　ECHO Point Walk	共	令和元年12月	企画「VOID」（秋田公立美術大学アトリエももさだ、秋田県秋田市）	美術家の今尾拓真と現代音楽家の宮本一行による企画「VOID」は、インスタレーションとパフォーマンスを並走させる新たな試みである。本展では、敷地内のエコーポイントをトロンボーンで演奏して回る《ECHO Point Walk》を会期中実践した。

著書・学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所,発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（出品） 53　流れ橋との身体的対話	単	令和2年9月	京都:Re-Search 2020 in 八幡 成果報告展（松花堂庭園・美術館、京都府八幡市）	京都府が取り組むアーティスト・イン・レジデンス事業「京都：Re-Search」において応募企画が採択され、２週間に渡る滞在制作を行い、その成果を発表した。
54　接触の形跡	単	令和2年10月～12月	個展「接触の形跡」（ギャラリー ブルーホール、秋田県潟上市）	小玉醸造株式会社内に位置する酒蔵を改修したギャラリー「ブルーホール」より招聘され、会場内に響く足音に着目した一連のインスタレーション作品を展示した。
55　個展「Outer Edge / 知覚の外縁」	共	令和3年2月～5月	個展（ユニットとして）「Outer Edge/ 知覚の外縁」（BIYONG POINT、秋田県秋田市）	秋田県秋田市に位置するCNAケーブルテレビ社屋内に作られた県内唯一のホワイトキューブのギャラリー「BIYONG POINT」にて、奇岩「ネコバリ岩」周辺のホワイトノイズの変化に着目したインスタレーション作品《Outer Edge/ 知覚の外縁》を展示した。
56　TRANSITION	共	令和3年3月	アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 2019・2020合同受賞作品展（福岡市科学館、福岡県福岡市）	世界規模で展開するメディアアートの公募展「アジアデジタルアートアワード」において優秀賞を受賞し、福岡市科学館で作品を展示した。
57　TRANSITION	共	令和3年3月	トウキョウ建築コレクション2021 プロジェクト展（代官山ヒルサイドテラス、東京都渋谷区）	全国の建築学系の研究室が取り組む、社会と協働するプロジェクト活動を紹介する展覧会「トウキョウ建築コレクション」において、作品パネルを展示した。
58　共振する躯体	単	令和3年10月～11月	ALTERNATIVE KYOTO（松花堂庭園・美術館、京都府八幡市）	京都府域展開アートフェスティバル「ALTERNATIVE KYOTO」において、地域の流れ橋との対話によって構成されたサウンド・インスタレーション作品を展示した。
59　共振する躯体	単	令和4年3月	複合芸術会議2022 複合芸術の幻影（秋田市文化創造館、秋田県秋田市）	秋田公立美術大学大学院のアニュアル・シンポジウムにおいて、展示空間に合わせてリデザインした過去作品を展示した。
60　ConPro	共	令和4年6月	貨物鉄道フェスティバル（道の駅あびらD51ステーション、北海道安平町）	JR貨物株式会社と札幌大谷大学の連携事業において研究室の学生と共にコンテナ内にインタラクティブ・アートを展示した。
61　AI Graphic Notation	単	令和5年2月	eleven sense（札幌市資料館、北海道札幌市）	札幌大谷大学芸術学部美術学科に所属するメディア表現領域の教員11名による企画展において、作品を展示した。

著書・学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所,発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（出品） 62　雪面の歩行	単	令和5年9月～12月	個展（「雪面の歩行 Walk on the Snow Field」（BIYONG POINT、秋田県秋田市）	秋田県秋田市に位置するCNAケーブルテレビ社屋内に作られた県内唯一のホワイトキューブのギャラリー「BIYONG POINT」にて、北海道大雪山系における雪山登山を題材にしたインスタレーション作品《雪面の歩行》を展示した。
63　雪面の歩行	単	令和6年2月	個展（「雪面の歩行 Walk on the Snow Field」（ギャラリーももさだ、秋田県秋田市）	秋田公立美術大学博士審査作品として、北海道大雪山系における雪山登山を題材にしたインスタレーション作品《雪面の歩行》を展示した。
（その他） （口頭発表） １　一般的なカメラにおけるSPAD値の測定方法に関する研究	共	平成30年3月	情報処理学会 第80回全国大会（早稲田大学、東京都新宿区）	本研究は、一般的なカメラを用いて撮影した植物のカラー画像から正規化された色の分布状況とSPAD値との関係性を調査し、SPAD値の面的な測定方法の確立を目的としている。本稿では、二十日大根を対象に実施した調査実験および方法について報告する。 発表者：綾田アデルジャン（＝アデルジャン・イミティ），飯倉宏治，宮本一行
２　かみこあにプロジェクト2018の開催報告：秋田県北秋田郡上小阿仁村で開催されている地域プロジェクト	単	平成30年10月	環境芸術学会 第19回大会（東京芸術大学、東京都上野区）	本研究は、秋田県北秋田郡上小阿仁村で開催されている地域プロジェクト「かみこあにプロジェクト2018」について、アートディレクターの視点から様々な実践を報告する。本プロジェクトは、現代アート部門、音楽部門、伝統芸能部門の３つを軸にした芸術祭であり、筆者は領域を横断しながらそれぞれの部門に関わってきた。アートプロジェクトを地域固有の環境として捉え直すことで、自然と人工が調和する景観に着目していく必要性について示した。
３　感覚風景の陰影：KEAT2019｜小砂環境芸術祭での実践報告	単	令和元年10月	環境芸術学会 第20回記念大会（道上寺、東京都港区）	本研究は、栃木県那須郡那珂川町小砂地区にて開催されている「KEAT｜小砂環境芸術祭」において筆者が制作した作品《感覚風景の陰影》の実践報告である。「里山を資源」とする作品素材や制作手法、滞在制作をまとめるとともに、サイトスペシフィックな作品が地域社会と共生するあり方について考察した。地域アートプロジェクトにおいて、地元住民は「作品」よりも「作家」との関わりを期待している場合が見られる。しかし、本実践を通じて、地元住民と作家がお互いの専門性を認め合い、協働していくことで、「作品」と「展示場所」を含めた４つの関係性が形成された。これらの関係性によって、地域に美的景観が創出される可能性を示した。

著書・学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所,発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（その他） （口頭発表） ４　音風景との協奏	単	令和2年2月	複合芸術会議2020 愛知セッション（アートラボあいち、愛知県名古屋市）	本研究では、山形県飽海群遊佐町に位置する十六羅漢像の沿岸部にて実施したサウンドパフォーマンスについて紹介する。本実践を通じて、特定の場所の音風景と協奏するためには、現代音楽が鑑賞者に求める３つの聴取に努めることが重要であると考えた。「周辺的聴取」によって音を総体的に把握し、「創造的聴取」によって即興的に記譜するとともに、「能動的聴取」によって音風景との応答を行う。そのためには、表現としての音響が、音風景の中で唯一の「共異体」となることが必要であることを示した。
５　芸術分野を解析対象とする芸術情報学の紹介	共	令和2年3月	映像情報メディア学会研究会（コロナのため未開催であるが既発表とみなす）	本研究は、芸術分野における人間の活動をデータ化し、それらを計算機により解析・分析する芸術情報学に関する研究報告である。芸術情報学は既に確立されたものではなく、筆者らが立ち上げを目指している研究分野・領域である。本稿では、芸術情報学を紹介すると共に立ち上げの可能性を探るために実施した予備実験の結果についても報告する。予備実験は、秋田公立美術大学の関係者が主催・開催した、いくつかの講演会や研究集会での発言を対象とした。 発表者：宮本一行（代表執筆者）、土方大、飯倉宏治
６　比叡山中にて実施したサウンドパフォーマンスの紹介	単	令和2年6月	日本サウンドスケープ協会 2020年度春季研究発表（オンライン開催）	本研究では、滋賀県大津市山中町に位置する共同アトリエ「山中スープレックス」に滞在し、比叡山中にて取り組んだサウンド・パフォーマンスについて紹介する。本実践は、筆者が演奏するバストロンボーンの音響が環境の反応の触媒となることで、人間と環境の相互作用によって作り出された音楽的表現である。その聴取を通じて、現地の音環境を正しく理解するための「准環境」としての提示を試みるものである。今回は、本実践の一部について、映像記録を用いて報告した。

著書・学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所,発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（その他） （口頭発表） ７　接触の形跡：音と光を用いたインスタレーションの創出	単	令和2年11月	環境芸術学会 第21回大会（オンライン開催）	本研究は、秋田県潟上市に位置するギャラリー「ブルーホール」にて開催された個展「接触の形跡」において、筆者が制作した一連のインスタレーション作品に関する実践報告である。展示会場である日本酒貯蔵庫に現れる音也光の痕跡を主題とする作品素材や制作手法をまとめるとともに、インスタレーション作品における展示空間と鑑賞者の関係性について考察した。本展においては、鑑賞者は音を介して「視覚」「聴覚」「触覚」を用いて空間を知る、或いは測る体験を得ることができる。一方向的な視覚の特性と、周縁的な聴覚の特性による空間認識の「ズレ」をつなぐために、「触覚的体験」を意識的に取り入れることの有効性を示した。
８　インスタレーションにおける共感覚的知覚に関する研究	単	令和3年3月	令和2年度秋田公立美術大学競争的研究費報告会（オンライン開催）	本研究は、秋田県潟上市に位置するギャラリー「ブルーホール」において開催した展覧会「宮本一行　接触の形跡」に関する実践報告である。インスタレーションにおける共感覚的知覚について、展示会場でのリサーチ活動と展覧会の鑑賞体験から考察した。本稿では、音の主体と客体の入れ替え可能性に着目することで、視聴覚と触覚の関係性について、一つのあり方を提示した。
９　里山の音風景が導く環境芸術	単	令和3年5月	複合芸術研究会（オンライン開催）	本研究は、秋田県上小阿仁村八木沢集落および栃木県那珂川町小砂地区において、筆者らが取り組んだインスタレーション作品上でのサウンド・パフォーマンスに関する研究報告である。これまでに実施した３つのパフォーマンスを音楽的聴取という概念を用いて捉え直すとともに、作品の鑑賞体験における聴取のあり方について考察した。本稿では、周辺環境を手がかりに制作した作品を、音楽的聴取という概念を用いて捉え直すことによって、里山の音風景から導く環境芸術の一つのあり方を示した。

著書・学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所,発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（その他） （口頭発表） 10　音と聴取のための芸術実践	単	令和4年3月	複合芸術会議2022複合芸術の幻影：＜トランス＞のあり方とこれから（オンライン開催）	本発表は、京都府八幡市にて実施された京都府アーティスト・イン・レジデンス事業「京都：Re-Search in 八幡」及び、京都府域展開アートフェスティバル「ALTERNATIVE KYOTO：創造力という＜資本＞」八幡エリアにおいて、筆者が取り組んだ一連のインスタレーション作品に関する実践報告である。本実践において、リサーチ対象とした上津屋橋での実践調査をはじめ、インスタレーション作品の製作手法をまとめるとともに、環境を捉える身体のあり方について報告した。本発表では、接触と非接触の状態が絶えず繰り返されることによって＜メタノイシス＞の状態となることから、他者を捉える身体の一つのあり方を示した。
11　共振する躯体：「流れ橋」との身体的対話	単	令和4年5月	環境芸術学会2022年度春季研究発表大会（オンライン開催）	本研究は、京都府八幡市にて実施された、アーティスト・イン・レジデンス事業「京都：Re-Search 2020 in 八幡」での地域調査と、展覧会「ALTERNATIVE KYOTO 2021 in 八幡」において筆者が制作した作品《共振する躯体》に関する一連の研究報告である。本作品の造詣手法をまとめるとともに、サウンド・インスタレーション作品における鑑賞者の身体の状態を考察した。歩行するという行為を意識化させることは、展示空間の「環境」を知ることにつながる。また、そのためには、一般感覚である触覚の体性感覚、とりわけ身体内部の深部感覚に意識を向けさせる必要があることを提示した。
12　展覧会「Outer Edge/知覚の外縁」の制作報告：残余空間への視点	共	令和4年5月	環境芸術学会2022年度春季研究発表大会（オンライン開催）	本発表は、2022年2月から5月にかけて、秋田県秋田市のギャラリー・ビヨンポイントにて実施した展覧会「Outer Edge/知覚の外縁」に関する制作報告である。物質としての作品表現が行われておらず、鑑賞者の介入が想定されていない空間を「残余空間」と再定義し、そこに現れる音や光といった現象に着目することによって、ギャラリーと作品の図と地の関係を読み解いた。以上のことから、身の回りの環境を捉え直す芸術実践の一つのあり方を示した。

著書・学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所,発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（その他） （口頭発表） 13　地域のアートドキュメントに関する研究：展覧会「ALTERNATIVE KYOTO 2021 in 八幡」を事例として	単	令和4年10月	環境芸術学会第23回大会（秋田市文化創造館、秋田県秋田市）	本研究は、京都府八幡市にて開催された展覧会「ALTERNATIVE KYOTO 2021 in 八幡」において、筆者を含め、滞在制作に取り組んだ５名のアーティストの制作プロセスをアートドキュメントの観点からまとめた研究報告である。彼らの実践分析を通じて、物質化された作品以外にも、「身体時間」というその時・その場所にアーティストや作品が存在していたことに着目した。そして、アーティストと地域住民が「身体時間」を共有することによって、地域住民によって語り継がれるという新しいアートドキュメントのあり方を提示した。
14　AI Graphic Notation	単	令和5年5月	環境芸術学会2023年度春季研究発表大会（オンライン開催）	本発表は、画像生成AI「Stable Diffusion」を新たな環境として捉え、筆者が制作した音響作品《AI Graphic Notation》に関する制作研究報告である。画像生成AIの仕組みや制作プロセスをまとめるとともに、アーティストと画像生成AIにおける協働制作の在り方について考察した。画像生成AIと協働していくためには、使用者にアートディレクション能力が求められることが分かった。そのことから、画像生成AIを技法としてではなく、リサーチ環境として捉える協働制作の一つの在り方を示した。
15　雪面の歩行	単	令和5年10月	環境芸術学会第24回大会（東京工科大学蒲田キャンパス、東京都大田区）	本発表は、2023年9月17日から12月25日にかけて、秋田県秋田市に位置する秋田公立大学ギャラリー「ビヨンポイント」にて開催している個展「雪面の歩行」において、筆者が製作した一連のインスタレーション作品に関する実践報告である。本実践において、リサーチ対象とした大雪山系での雪山登山をはじめ、作品の制作手法をまとめるとともに、音と聴取のための新たな試行について考察した。本実践においては、音環境を捉えるために触覚＝（音の）振動に着目したことで、ミュージッキングにみられる「音楽する」という経験を如何にして鑑賞者に経験してもらえるのかが重要な鍵になることがわかった。聴き手でありながら音を発すること、すなわち観測者であり行為者でもある状況を作り出すことが、音と聴取のための新たな試行を考えていく上で重要な要素になることを提示した。

著書・学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所,発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（その他） （口頭発表） 16　音環境と協奏する芸術実践：聴取のための複合芸術研究	単	令和6年2月	博士論文公聴会（秋田公立美術大学、秋田県秋田市）	本研究は、これまで国内外各地の様々な環境において、その場所を満たしている音環境と協奏する芸術実践を多数行ってきた筆者が、サウンドケープを人間が発する音も含めた本来的な音環境として改めて捉え直すための新たな芸術実践論を提示することを目的としたものである。まず、二十世紀以降の音環境を主題とする主要な作品群を取り上げ、それらの聴取体験の諸特徴を分析した。次に、音を創造することとその音を聴くことを同時に行うことを意識して取り組んだ筆者の四つの芸術実践を事例とし、「成し手」と「聴き手」の二つの立場からそれらの聴取体験を分析した。そして、人間が発する音も含めた本来的な音環境の捉え方に関する諸特徴を明らかにするとともに、鑑賞体験を通じて本来的な音環境を捉える身体感覚を引き出す新たなインスタレーション・アートを制作することで、「音環境を捉えることとは何か」という根源的な問いに対する一つのあり方を提示した。
（その他） １　都市の音環境における人の足音に関する研究	単	平成21年8月	武蔵野大学卒業研究（武蔵野大学）	本研究は、千葉県柏市にて建設中の「アーバンデザインセンター柏の葉」における森の広場において、筆者が提案したデザイン案に関する研究報告である。都市の音環境と人の足音の相互作用に着目したデザインプロセスをまとめるとともに、都市の音環境における自然音と人工音が調和するあり方について考察した。人々は、自らが発する音が誇張され、かつ音色が変更されて聞こえる時、周囲のそのほかの環境音にも注意が向けられることが確認できた。
２　Recording of AKITA Project：秋田空港の壁面を活用した展示空間の創出	共	平成31年3月	秋田公立美術大学研究紀要(6)	本研究では、秋田空港にて開催された写真家の草彅裕と美術家の宮本一行による作品展示「Recording of AKITA Project」に関する実践報告である。両者ともに秋田の川を題材とした写真作品を制作しており、草彅は玉川シリーズ、宮本は小阿仁川シリーズを今回の展示作品とした。展示場所は秋田空港の手荷物受取所と１Fカフェラウンジである。会期中に複数回、作品を入れ替えながら秋田県が有する自然の美しさを示した。 著者：草彅裕、宮本一行（責任著者）